

厚岸町における部活の地域移行に関する アンケート調査の結果と分析

1 目的

児童、生徒、保護者、教職員を対象として、部活の地域移行についての意向に関するアンケート調査を実施し、現状を把握・分析した上で、厚岸町部活動地域移行検討協議会における協議の参考とする。

2 調査対象

- ① 小学校5年生、6年生
- ② 小学校5年生、6年生の保護者
- ③ 中学校1年生、2年生、3年生
- ④ 中学校1年生、2年生、3年生の保護者
- ⑤ 中学校の教職員

※今後、地域移行した場合に当事者となる小学生とその保護者も対象としている。

3 調査期間

令和5年6月 7日（水）～6月21日（水）

4 調査方法

無記名・WEB調査

5 回答状況

	対象者	回答数	回答率
① 小学校5年生、6年生	112	100	89%
② 小学校5年生、6年生の保護者	109	31	28%
③ 中学校1年生、2年生、3年生	165	126	76%
④ 中学校1年生、2年生、3年生の保護者	160	35	22%
⑤ 中学校の教職員	31	28	90%

厚岸町教育委員会

I 部活動に求めるもの

児童数	生徒数	児童 保護者数	生徒 保護者数	教職員数
183	226	60	70	74
◆複数回答				

上位3項目

	児童	生徒	児童保護者	生徒保護者
大会やコンクールなどでよい成績をとること	10%	21%	5%	7%
体力や技能などを向上させること	27%	22%	17%	14%
人として成長し、自信をもてるようになること	17%	11%	35%	36%
仲間とのよい人間関係を作ること	24%	19%	25%	34%
スポーツや文化に親しみ、楽しむこと	14%	18%	12%	7%
1つに限らず、興味をもった種目を体験すること	4%	2%	5%	1%
わからない	3%	7%	2%	0%
何もない	1%		0%	0%
その他	(楽しくやる事、楽しむこと、スポーツの楽しさを改めて知る機会)			

上位3項目

	教職員
目標に向かってコツコツ取り組む力	19%
仲間と関わりながら自己を高める力	26%
競技や種目そのものの楽しさ	11%
競技や種目の高いレベルの技術習得	0%
基本的な生活習慣（規範意識を含む）	9%
豊かな人間性（思いやりなど）	14%
厳しい練習等を通じて培われる精神力	4%
達成感や充実感	8%
勝つ喜びや負ける悔しさ	1%
生涯にわたって競技や種目に親しもうとする意欲	8%

部活に求めるものとして、児童生徒とも「体力や技能を向上させること」、児童生徒の保護者とも「人として成長し、自信をもてるようになること」、教職員は「仲間と関わり合いながら自己を高める力」の割合が最も高かった。児童生徒、保護者、教職員ともに、「仲間と関わり合うこと」の割合が高く、北海道でも児童生徒の調査では同様の結果となっている。

一方で、「大会やコンクールなどでよい成績をとること」は、生徒以外は10%以下であり、教職員も「競技や種目の高いレベルの技術習得」「厳しい練習等を通じて培われる精神力」の回答割合は低かった。

部活動に求めるものとして、好ましい人間関係を築くことや体力や技能の向上、自己肯定感を高めることや豊かな人間性の醸成などのニーズがあることがうかがえる。

II 現在の少年団・部活動の加入状況と今後の希望の活動

	現在の加入状況		中学校で やりたい 部活動	休日に活 動したい 部活(学校 にない活 動)	休日に活 動したい 部活(学校 にない活 動)	
	児童(人)	生徒(人)	児童(人)	児童(人)	生徒(人)	
運動系	サッカー	11	11	17	0	2
	野球	10	11	15	0	2
	バスケットボール	4	7	16	1	1
	バドミントン	3	25	40	2	3
	バレーボール	0	0	14	1	7
	水泳	6	1	5	1	0
	ダンス	3	0	8	0	6
	陸上	5	13	19	0	2
	空手	6	0	4	2	1
	柔道	1	2	2	0	2
	剣道	0	0	7	1	2
	ソフトテニス	0	0	6	1	5
	弓道	0	0	10	0	6
	卓球	0	0	13	1	4
	体操	1	0	1		
	ハンドボール					1
	スピードスケート			3		
	フィギュアスケート	0	0	2	0	1
	アイスホッケー	0	0	3	0	1
	スキー/スノーボード	0	0	4	0	3
	スケートボード	0	0	3	0	2
	乗馬	1	0			
自転車競技					1	
文化系	吹奏楽	0	10	14	0	1
	美術	0	0	11	1	4
	書道	7	2	8	1	2
	華道	0	0	4	0	2
	手芸	1	0			
	ピアノ	5	0	2	1	
	三味線	1	0			
	オセロ				1	
その他	厚岸かぐら	4	0			
	厚岸海洋クラブ	0	1			
	e-スポーツ				1	
	特になし			12		

現在、中学校部活動7種目11団体、少年団8団体、翔洋高校部活動12種目となっており、中学校部活動加入率55%、児童少年団加入率29%、高校部活動加入率65%となっている。本アンケートから既存の少年団・部活動のほか、地域での活動(クラブなど)や習い事などの回答もあった。

児童生徒の回答から、現在活動している少年団・部活の他、個人種目・団体種目を問わず多様な種目を希望している。また、児童や保護者アンケートの記述からは、文化系の活動を希望する声も多いことから、文化系の活動の充実も検討課題としたい。

III 地域のクラブ(町内外のクラブ)の加入理由

	児童(人)	生徒(人)	保護者(人)
そのスポーツ、文化活動が好きだから	9	9	8
そのスポーツ、文化活動の技能を高めたいから	6	7	5
周囲の人に勧められたから	0	1	0
先輩や友人に勧められたから	5	0	0
保護者が勧めたから	4	4	1
よい指導者がいるから/いたから	1	4	2
仲間と楽しく過ごせそうだから	5	3	3
そのスポーツ、文化クラブが少年団活動になかったから	0	0	0
楽しそうだから	1	1	0
姉2人ともやっていたから		1	
新聞で海洋クラブを見つけてやってみたかったから		1	
人見知りをせず自分に自信がもてるようになるため		1	

児童、生徒、保護者とも「そのスポーツ、文化活動が好きだから」「そのスポーツ、文化活動の技能を高めたいから」の回答が多い。先輩や友達、保護者に勧められたり、良い指導者や仲間の存在なども加入の理由としてあげている。

地域クラブも部活動同様、「仲間と一緒に、好きな活動の技能を高める」ことを目的に加入している実態がうかがえる。

IV 休日の地域部活動の希望種目

	上位3項目	児童(人)	生徒(人)
平日活動しているスポーツ、文化活動と同じ種目		15	48
スポーツの基本となる身体の使い方を学ぶ活動		29	23
いろいろな種目を体験できる活動		31	28
楽しむことを目的とした活動		60	67
勝つことを目的とした活動			27
学校の部活動にはない種目を体験できる活動		7	22
参加したくない		11	31
その他		0	0

休日の部活動では、「楽しむことを目的とした活動」と回答した児童生徒が最も多い。生徒は「平日と同じ活動」の希望も多いが、「活動の基本を学ぶ」「いろいろな種目を体験する」など、平日にこだわらない活動を希望する児童生徒も多い。

一方、「参加したくない」との回答(児童11人、生徒31人)もあることから、既存の活動を生かすことだけでなく、児童生徒のニーズに合った活動も地域移行を進めるに当たって大切な視点である。

V 活動時間や休養日について

(1) 地域移行後の部活動の活動時間(平日)

	児童	生徒	児童保護者	生徒保護者
平日 1 時間未満	2	0	1	0
平日 1 時間～ 2 時間	21	28	6	5
平日 2 時間～ 3 時間	22	44	9	15
平日 3 時間以上	4	7	0	0

(2) 地域移行後の部活動の活動時間(休日)

	児童	生徒	児童保護者	生徒保護者
休日 1 時間未満	4	1	1	0
休日 1 時間～ 2 時間	13	11	3	0
休日 2 時間～ 3 時間	12	40	8	12
休日 3 時間以上	4	13	2	4

(3) 地域移行後の部活動の休養日

	児童	生徒	児童保護者	生徒保護者
週に 1 日～ 2 日	19	31	5	14
週に 2 日～ 3 日	17	28	7	5
週に 3 日～ 4 日	8	12	4	1
週に 4 日～ 5 日	5	8	1	0

地域移行後の活動時間(平日)では、「2時間～3時間程度」と回答した児童生徒保護者が多い。休日でも、「2時間～3時間程度」と回答した生徒・保護者が最も多かった。休養日は、週に1日～2日の回答が児童生徒、生徒の保護者が最も多く、活動時間及び休養日は、現在の部活動の実態とほぼ同じ活動を求めている。

町教委が定めている「厚岸町立学校に係る部活動の方針」では、活動時間は平日2時間程度、休業日は3時間程度としており、週あたり2日以上の休養日をつけること(平日は少なくとも1日、土曜日及び日曜日は少なくとも1日以上を休養日とすること)と定めている。この方針は、生徒の心身の健全な成長に配慮することや、指導者の負担を軽減することなどから持続可能な活動とすべく国・北海道のガイドラインに基づき町教委が定めたものであり、地域移行にあたっては、この方針に基づいて活動することを尊重した上で協議を進めていきたい。

VI 現在の活動費用

	児童保護者 17名	生徒保護者 20名		児童の保護者の回答	平均年額	
5,000円以下	24%	15%	厚岸町	児童の保護者の回答	平均年額	25,882円
10,000円以下	12%	45%		生徒の保護者の回答	平均年額	16,750円
20,000円以下	29%	20%	北海道	児童の保護者の回答	平均月額	16,353円
30,000円以下	24%	10%		生徒の保護者の回答	平均月額	16,353円
40,000円以下	0%	5%	<p>現在の少年団及び部活動の年間の負担額は、少年団で約26,000円(月額2200円)、部活動で約17,000円(月額1400円)となった。部活については、北海道の調査でも、厚岸町の調査と同様な費用となっている。また、少年団は20,000円以下、部活動は10,000円以下の回答が最も多くなっている。</p> <p>少年団より部活動の保護者負担が低くなっているのは、部活動の運営費が学校の施設や備品を活用していたり、指導者が教員であることから指導報酬等が発生しないことも反映されていると考えられる。</p>			
50,000円以下	0%	5%				
60,000円以下	0%	0%				
70,000円以下	0%	0%				
80,000円以下	6%	0%				
90,000円以下	0%	0%				
100,000円以下	0%	0%				
100,001円以上	6%	0%				

VII 休日の部活動の参加費等許容額（月額）

	児童保護者 17名	生徒保護者 20名		児童の保護者の回答	平均月額	
0円	6%	20%	厚岸町	児童の保護者の回答	平均月額	3,295円以下
1,000円以下	0%	20%		生徒の保護者の回答	平均月額	3,150円以下
2,000円以下	41%	25%	北海道	児童の保護者の回答	平均月額	3,559円
3,000円以下	24%	10%		生徒の保護者の回答	平均月額	3,446円
4,000円以下	0%	0%	<p>休日における部活動への参加費の許容金額は、厚岸町で平均3,200円程度となった。北海道の調査では、平均3,500円程度であり、どちらも平均値は3,000円を超える額となった。</p> <p>しかし、児童生徒保護者とも2,000円以下と回答した割合が最も多いことや、中央値でも2,000円以下となることから、平均値3,200円以下よりも中央値2,000円以下が許容額の実態を反映していると考えられる。</p>			
5,000円以下	24%	15%				
6,000円以下	0%	0%				
7,000円以下	0%	0%				
8,000円以下	0%	5%				
9,000円以下	0%	0%				
10,000円以上	6%	5%				

VIII 教職員の意識実態

1 部活動指導のやりがいについて(人)	
とても感じている	1
まあ感じている	7
あまり感じていない	6
全く感じていない	1

2 部活動指導の負担感について(人)	
大会運営や引率があることが負担を感じる	13
休日の活動であるため負担を感じる	12
疲労・休息不足から負担を感じる	12
長時間労働になるため負担を感じる	12
部活動に対する報酬に関わって負担を感じる	9
指導員等の不足から負担を感じる	6
学校内や教員間の連携の必要性から負担を感じる	6
競技未経験のため負担を感じる	4
その他(意見等)	4
保護者や地域からの期待や過熱から負担を感じる	3
負担に思うことはない	0

3 休日の部活動が地域に移行された場合の指導について(人)	
兼職兼業の許可を受けた上で休日も地域の指導者として指導したい	1
平日の指導は続けたいが休日は地域にお願いしたい	0
平日の指導も段階的に地域にお願いしたい	10
部活動の指導に関わることなく教科等の本来業務に専念したい	13
なんともいえない	4

教職員からは28名から回答があり、その中で15名が部活担当者である。部活のやりがいについては、ほぼ半数が「感じている」と回答している。部活動の負担感については、「負担に思うことはない」の回答は0人であり、全指導者が負担を感じながら指導を行っている実態にある。具体的に負担を感じる点については、「大会運営や引率」「休日の指導」「指導による疲労」「長時間労働」などが多い。

また、休日の部活動が地域に移行された場合の指導については、兼職兼業の許可を受け指導したいと回答した教職員は1名のみであり、「部活動に関わることなく教科などの本来業務に専念したい(13人)」が最も多くなっていることから、休日において教職員が地域の一員として指導する可能性は低い。

このほか、記述欄には教職員から多くの声をいただいている。部活動の教育的な意義や生涯学習の視点からその重要性の理解についての声をいただいている一方で、これまでの部活動が教職員の負担の上に成り立っていることを指摘する声が非常に多い。今回、これらの意見を保護者や地域に理解していただくことも地域移行を進める上では非常に重要である。

概ね「地域移行は積極的に進めてほしい」との意見が大多数を占めるが、指導者の確保、財源の確保の見通しなどから、地域移行の困難性を指摘する声もあった。

地域の中で指導者していただける方の確保や財源の見通しをもたなければ、地域移行の道筋はつかない。